

南伊豆地域広域ごみ処理事業

生活環境影響調査について

下田市・南伊豆町・松崎町・西伊豆町

令和4年7月

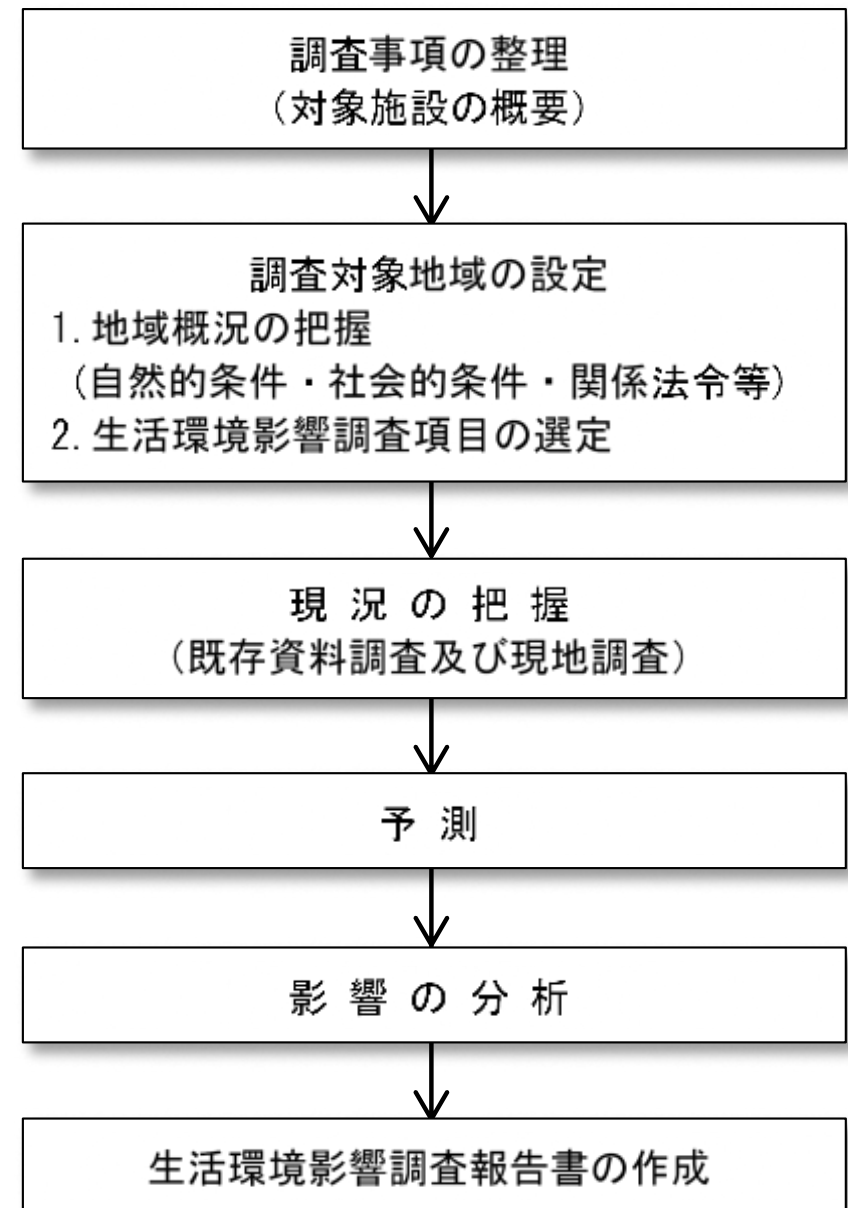
1. 生活環境影響調査の概要

生活環境影響調査とは

■生活環境影響調査とは■

「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき、廃棄物（ごみ）処理施設を整備するのに先立って、施設が周辺的生活環境に及ぼす影響について予測評価するとともに、より良い施設の整備や維持管理に反映させることを目的として行う調査のこと。

この調査は、「廃棄物処理施設生活環境影響調査指針（平成18年9月 環境省）」に沿って実施します。



【生活環境影響調査の流れ】

施設整備計画の概要

◆廃棄物運搬車両



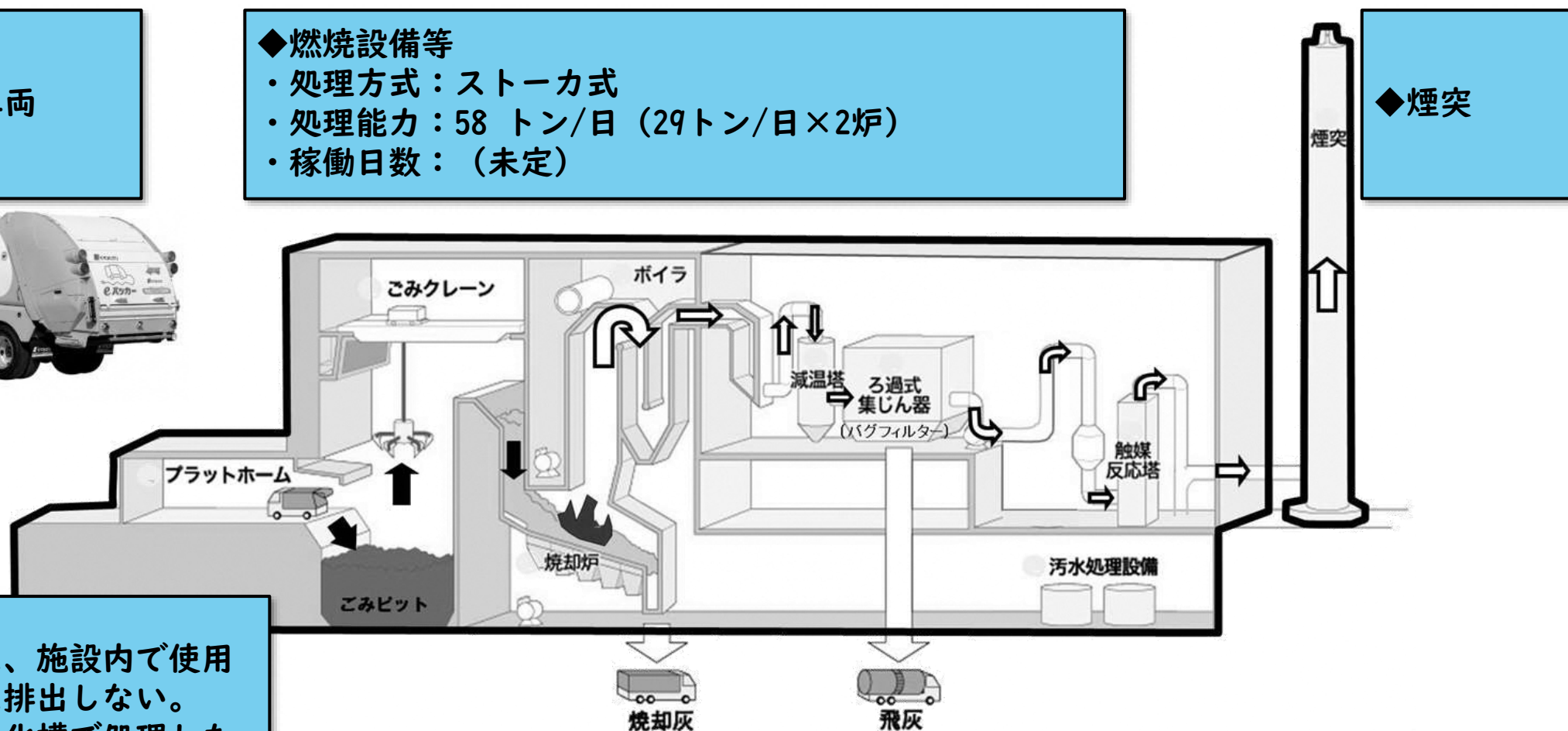
◆燃焼設備等

- ・処理方式：ストーカ式
- ・処理能力：58 トン/日 (29トン/日×2炉)
- ・稼働日数：(未定)

◆煙突

◆排水

処理施設の排水は、施設内で使用するため、河川には排出しない。
トイレの排水は浄化槽で処理したのち最寄りの河川に排出します。



注：この図はイメージです。

想定される環境影響の検討

- 廃棄物運搬車両の走行
 - ・ 大気質
 - ・ 騒音、振動

◆ 廃棄物運搬車両



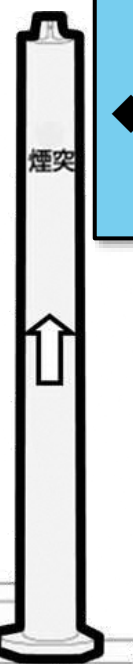
- 施設の稼働
 - ・ 大気質（資源化施設からの粉じん）
 - ・ 騒音、振動
 - ・ 悪臭（施設からの漏れ出し）

◆ 燃焼設備等

- ・ 処理方式：ストーカ式
- ・ 処理能力：58 トン/日（29トン/日×2炉）
- ・ 稼働日数：（未定）

- 煙突排ガス
 - ・ 大気質
 - ・ 土壌汚染
 - ・ 悪臭

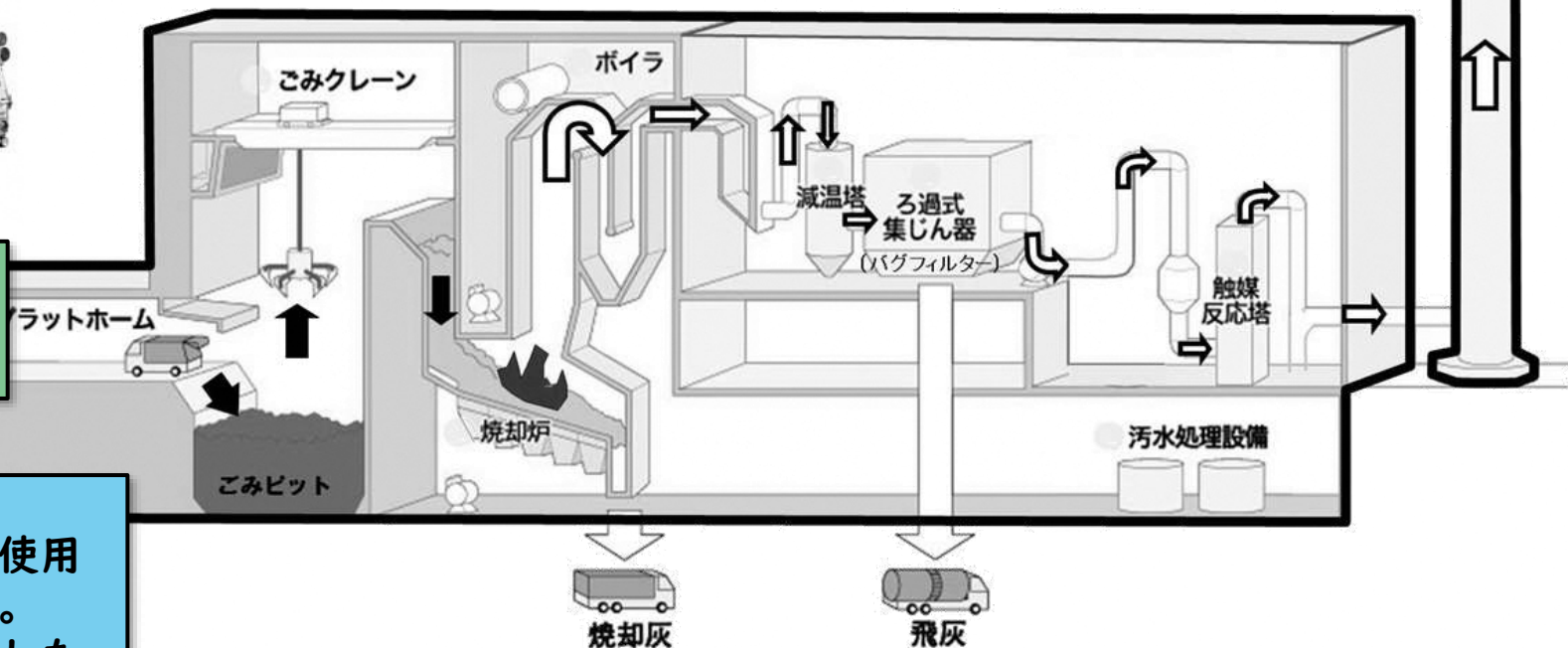
◆ 煙突



● 施設排水・水質

◆ 排水

処理施設の排水は、施設内で使用するため、河川には排出しない。
トイレの排水は浄化槽で処理したのち最寄りの河川に排出します。



注：この図はイメージです。

調査・予測・評価項目の検討結果

	煙突 排ガス	施設 排水	施設の 稼働	施設から の漏えい	車両の 走行
大気質	●		●		●
騒音・振動			●		●
悪臭	●			●	
水質		▲			
土壌	●				

●：現況調査と将来の予測評価を行う項目

▲：現況調査のみを行う項目

2. 現地調査の内容

施設整備候補地及びその周辺の状況



環境影響評価項目及び現地調査（全体）

調査項目及び現地調査概要（令和4年8月～令和5年8月の期間で実施）

項目	影響要因	調査地点	調査時期・回数
大気質	煙突排ガス	候補地周辺 3 地点	秋、冬、春、夏の各7日間 (粉じんは30日間)
	廃棄物運搬車両の排ガス	搬入搬出ルート沿道 2 地点	
	施設の稼働 (粉じん、PM2.5)	候補地周辺 1 地点	
	気象	候補地周辺 1 地点	1年間
騒音 振動	施設の稼働	候補地境界 1 地点	2季(冬季・夏季) ×平日・休日24時間
	廃棄物運搬車両の走行	搬入搬出ルート沿道 2 地点	2季(冬季・夏季) ×平日24時間
悪臭	煙突排ガス 施設からの漏えい	候補地境界 2 地点 候補地周辺 3 地点	冬季、夏季
水質	施設排水	河川 1 地点	秋、冬、春、夏
土壌	煙突排ガス	候補地周辺 3 地点	1回

現地調査地点（全体）



□ 候補地（現施設）

↯ 搬出搬入ルート

現地調査地点

● 大気質

★ 気象

■ 騒音・振動

◆ 悪臭

▲ 水質

▼ 土壌

現地調査地点（大気質）



【地点及び項目】

大気① 小山田公園

大気② 敷根2-23付近

二酸化硫黄、二酸化窒素、
浮遊粒子状物質、塩化水素、
水銀、ダイオキシン類

大気③ 敷根765-1付近

二酸化硫黄、二酸化窒素、
浮遊粒子状物質、塩化水素、
水銀、ダイオキシン類、
微小粒子状物質、
粉じん（降下ばいじん）

【調査時期】

秋、冬、春、夏の各7日間

粉じんは各30日間



大気質調査状況（二酸化硫黄等）



大気質調査状況（粉じん）

現地調査地点（気象）



【地点及び項目】

気象① 下田中学校
風向、風速

気象② 敷根765-1付近
気温、湿度、日射量、放射収支量

気象③ 敷根公園駐車場
上層気象（風向、風速、気温）

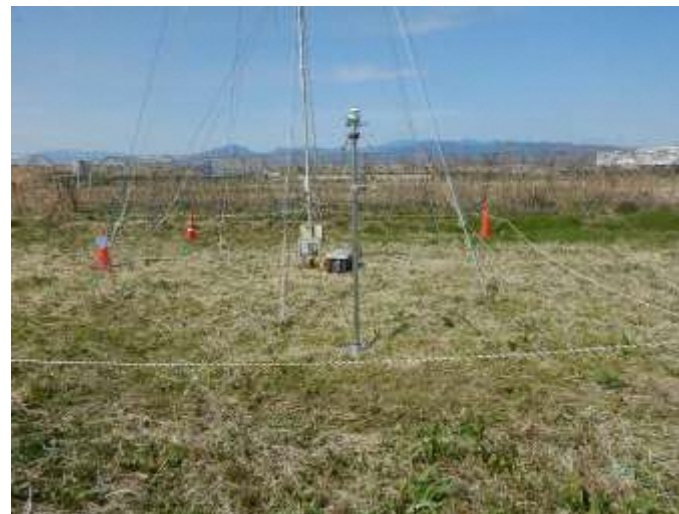
【調査時期】

①②は1年間

③は冬、夏の各7日間



気象調査状況（風向、風速）



気象調査状況（日射、放射）



上層気象調査状況

現地調査地点（騒音・振動）



【地点及び項目】

騒振① 候補地敷地境界
施設の騒音・振動（平日）
環境の騒音・振動（休日）

騒振② 敷根2-23付近

騒振③ 敷根765-1付近

自動車の騒音・振動（平日）
交通量、走行速度
道路構造
地盤卓越振動数



騒音振動調査状況



交通量調査状況

【調査時期】

騒振①は冬・夏のそれぞれ
平日と休日、24時間

騒振②③は冬・夏のそれぞれ
平日、24時間

現地調査地点（悪臭）



【地点及び項目】

悪臭①② 候補地敷地境界
（調査時の風上側と風下側）
特定悪臭物質22項目、
臭気指数

悪臭③ 小山田公園
悪臭④ 敷根2-23付近
悪臭⑤ 敷根765-1付近
臭気指数

【調査時期】

冬、夏の各1回

（参考）

臭気指数

人の嗅覚で悪臭の強さを
数値化したもの



悪臭調査状況（悪臭物質）



悪臭調査状況（臭気指数）

現地調査地点（水質）



【地点及び項目】

水質① 平田川（敷根川上流）
環境基準（生活環境項目）、
環境基準（健康項目）、
環境基準（ダイオキシン類）、
流速

【調査時期】

秋、冬、春、夏の各1回

（参考）

生活環境項目

水の汚れや濁りの項目

健康項目

重金属、有機溶剤、農薬など
健康被害のおそれがある項目



水質調査状況



流速調査状況

現地調査地点（土壌）



【地点及び項目】

土壌① 小山田公園

土壌② 敷根2-23付近

土壌③ 敷根765-1付近

土壌汚染に係る環境基準項目
ダイオキシン類

【調査時期】

冬に1回

（参考）

土壌汚染に係る環境基準項目
重金属、有機溶剤、農薬など
健康被害のおそれがある項目



土壌調査状況（採取地点選定）



土壌調査状況（試料採取）

3. 予測・評価の内容

将来予測の方法

調査対象項目について、現況調査結果（資料調査及び現地調査）に、計画施設による影響を加えることで、将来の環境の状態を予測します。

その際、大気質（大気汚染物質濃度）、騒音レベル、振動レベルなど、数値化可能な項目については、将来の環境の状況を予測により数値化します。

数値化できないものについては、現況調査結果や、計画施設における環境保全対策などから、定性的に予測します。

評価の方法

予測した結果は、次の2つの視点で評価します。

「環境に関する基準値や目標値と比較して適切かどうか」

予測結果を環境基準などと比較して、適合しているかどうかを評価する。

「環境基準」

人が生活する場所における望ましい環境の状態を数値化したもの。

(大気質、水質、環境の騒音レベル等)

「規制基準・排出基準」

良好な環境をつくるために、事業者が守るべき数値

(排ガス濃度、敷地境界での騒音レベル、排水濃度等)

「目標値」

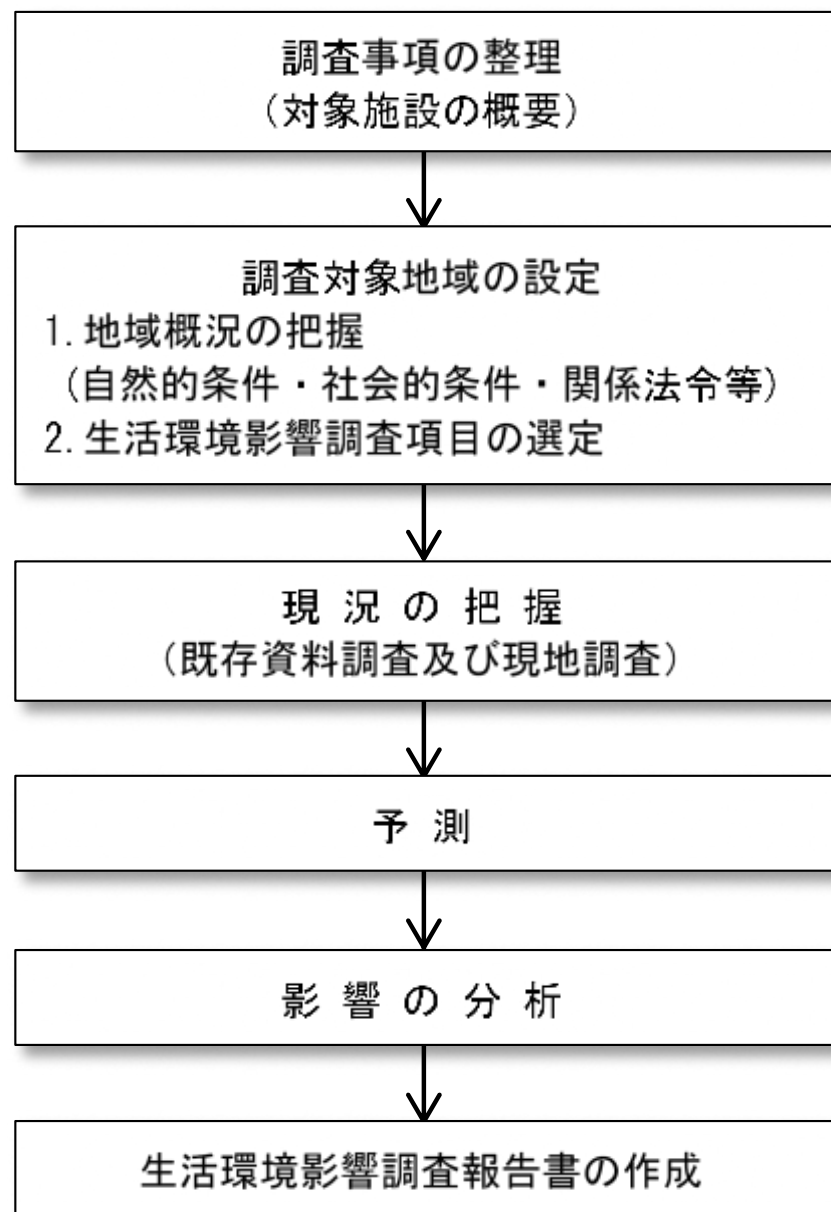
そのほか施設管理者が自主的に定める基準値

「実行可能な範囲で、できる限りの対策がとられているかどうか」

施設の設計や運用管理に、適切な環境保全措置が盛り込まれているかどうかを評価する。

4. 今後の進め方

今後の進め方



令和4年7月(現在)

令和4年8月 ~ 令和5年9月

調査報告書に関する住民説明会を実施します。

【 生活環境影響調査の流れ 】